

# 地方自治、女性の力で

鹿児島県

官民で後押し広がる

地方自治の中核を担う女性を育成する取り組みが、鹿児島県内で広がっている。2025年の「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」で、鹿児島は政治分野39位、行政分野41位と低迷。政策決定の場への女性進出が急務となっている。



SDGsの学びについて意見交換する参加者  
11月24日、鹿児島市のカイクックス交流センター

## パリティ・アカデミー 来春、初の政治参画セミナー



「あらゆる政策に、ジェンダー視点を組み入れることが大切」。11月24日、県がカイクックス交流センター（鹿児島市）で開いた女性向けエンパワメントセミナー。元国連職員で、みやざきSDGスプラットフォーム（宮崎市）の山田成美副代表幹事が講演し、持続可能な社会を実現するには男女格差の解消が不可欠と訴えた。

議員を志す人や自治体職員ら地方自治に関心のある女性を対象に、21年度から開いている。本年度はオンラインを含め47人が参加。9月から来年3月まで、計9回にわたって社会保障制度や健康問題、マネジメンツト力などをさまざまな専門家から学ぶ。

昨年8月、知名町政初の女性議員となった長山美香さん（51）は、数年前から受講。「町議に挑戦することへの不安が軽減された。勉強になることばかりで、自分の基盤になっている」と話す。他の自治体の議員らと知り合え、仲間づくりに役立っているという。

鹿児島市議の合原千尋さん（45）は「政策提言や議会で質問するために、学びの積み重ねが必要」と参加。さつま町議の上別府ユキさん（69）は

「ジェンダー平等社会にならないければ、若い女性は地方に残らない。社会を変えていくためにも、こうした学びが広がってほしい」と願う。

全国で政治家を目指す女性を支援する「パリティ・アカデミー」（東京）は来年2月22日、鹿児島では初となる「女性の政治参画を広げるための実践セミナー」学び、出会い、つながる場」を、カイクックス交流センターで開く。27年春の統一地方選に向けて、全国8カ所で行うセミナーの第1弾だ。

三浦まり共同代表（上智大教授）が、なぜ政治の場に女性議員が必要かを解説する。「女性リーダーが増えると地域は本当に良くなるのか」「声のあげ方がわからない」といった疑問に答えながら、どうすれば一歩を踏み出せるか考える内容になる予定だ。県内の現職女性議員3人も登壇し、政治家を志した動機やきっかけなどについて話す。

都道府県版ジェンダー・ギャップ指数の算出に関わる三浦共同代表は「ジェンダー平等に向かって、自分は何をしたらいのかに気付く機会になるはず。鹿児島の熱気を全国に波及させたい」と意気込む。参加対象は、政治やジェンダーに関心のある18歳以上の女性。専用フォーム <https://forms.gle/N59vYWVAXP> MB33c8から申し込む。

（赤間早也香）